

令和7年度の学校研究

1 研究主題

主体的に考え、学び合う子供の育成

2 主題について

本校は、学校目標「勉強だいすき、かしこい子ども」の具現化を図るため、「主体的に考え、学び合う子供の育成」というテーマで、教科を校らず研究を進めてきた。昨年度までの研究を振り返り、本校の児童の実態から、付けるべき資質・能力を下記の通りとした。

○児童に付けるべき力

- ・達成感を伴った学びの力
- ・自ら問いや課題を見いだす力
- ・課題を自分事として捉え、チャレンジしたり試行錯誤したりして自力解決しようとする力
- ・尋ねたり教え合ったりし合える対人関係
- ・しっかり聞いて心で感じる力

○中核とする付けるべき資質・能力

- ・チャレンジする力
- ・課題意識をもつ力
- ・「～したい」「おもしろそう！」と思って学ぶ力
- ・自分や自分達が主体となって学ぶ力

自ら何事にもチャレンジする姿こそが本校の児童の目指すべき姿であり、そのためには「わかる・楽しい授業」を行う中で、意欲的に自分で、そして仲間と学び合う姿を目指していかなければならない。よって、今年度も昨年度と同じ主題を設定し、昨年度までの研究を深化させていきたい。

3 めざす子供像

(1) 主体的に考え、進んで表現しようとする子供

- ・課題を自分事として捉え、学習に取り組む
- ・チャレンジしたり試行錯誤したりできるしなやかな心をもって学習に取り組む

(2) 学び合いを通して、考えを深めようとする子供

- ・尋ねたり教えたりし合える良好な対人関係の中で学習に取り組む
- ・相手の話をしっかり聞いて自分の考えを深めながら学習に取り組む

4 研究の視点

(1) 教科の特性を生かし、単元全体を見通した授業づくり

- 子供の問いや気づきにつながる課題設定の工夫
- 見通しや自力解決における自己決定の場の工夫
- 考えを伝え、質問して学び合う場の工夫
- 学んだことの良さを実感できる振り返りの場の工夫

(2) 生徒指導の4つの視点を意識した授業づくり

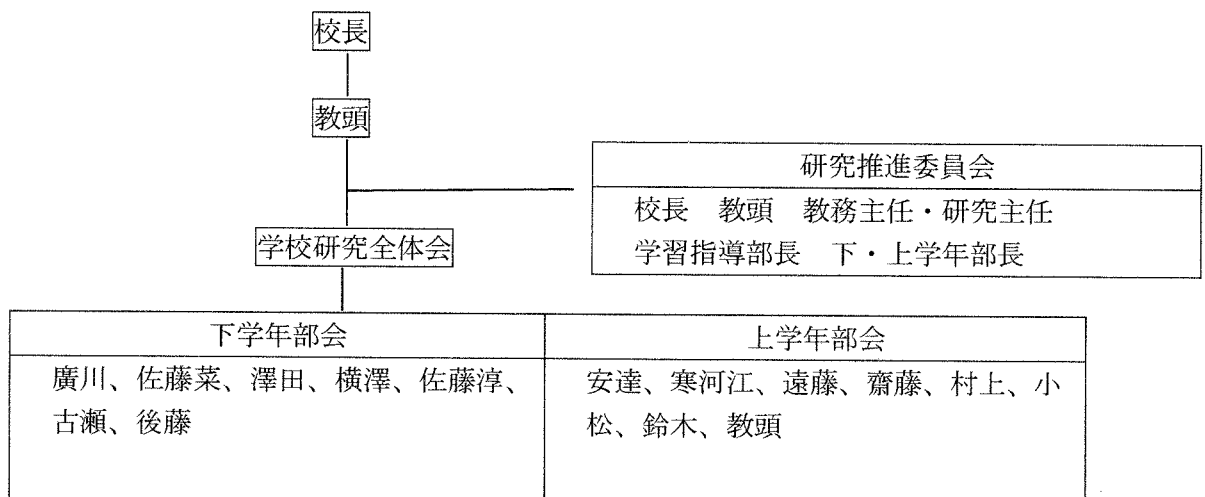
- 自分に役割があり、仲間として認められていると感じる機会（自己存在感の感受）
- 互いの立場や気持ちを理解し合いながら学ぶ場（共感的な人間関係の育成）
- 自分で決めて実行する機会（自己決定の場の提供）
- 互いに認め合い支え合う関係を育み、安心して自分の考えや思いを表現できる環境（安全・安心な風土の醸成）

5 研究方法

- ・授業研究を中核にし、研究についての共通理解を図りながら進める。
- ・学級1回の授業研究を行い、算数科を窓口にして研究を積み上げる。
- ・参考資料や参考文献を紹介し合ったり、先進校の研修に積極的に参加したりする。
- ・事前研は、「下学年部会」と「上学年部会」、に分かれて行う。
事後研は、ワークショップ型の話し合いを持ち、共有化を図る。
- ・授業研究時には、各自の記録を残し、事後研究会での話し合いに生かす。
- ・研究の共有と積み上げを図るために、研究主任が「成果と課題」をまとめ、研究だよりを全員に配付する。

6 研究計画

(1) 研究の組織



(2) 提案授業の日程 (1, 2, 3, 4, 5-1, 6-1, 6-2, な, わ, こ)

月 日		内 容
4月16日(水)	全体会・部会研	〈校内研①〉 研究計画提案、役割分担
5月14日(水)	事前研(1)※	〈校内研②③〉 6年1組
6月 4日(水)	授業研(1)	※事前研は口頭にて説明、授業研は提案授業

6月18日(水)	授業研(2)	〈校内研④〉なかよし、わかば、ことば
7月 2日(水) 7月16日(水)	事前研(3) 授業研(3)	〈校内研⑤⑥〉3年、6年2組
8月27日(水)	部会研	〈校内研⑦〉 1学期の反省と2学期に向けて
10月 8日(水) 10月29日(水)	事前研(4) 授業研(4)	〈校内研⑧⑨〉1年、4年
11月19日(水) 12月10日(水)	事前研(5) 授業研(5)	〈校内研⑩⑪〉2年、5年1組
2月25日(水)	全体会	〈校内研⑫〉研究の成果と課題、今年度の反省と来年度に向けて
3月 6日(水)	推進委員会	〈校内研⑬〉研究の成果と課題、今年度の反省と来年度に向けて

7 その他

- (1) 指導案の形式は、本時案を含めて全体で4ページ程度にまとめる。
- (2) 年度初めに、研究用ファイルを先生方に配布し、毎回の指導案と「成果と課題」を綴じ込んでいき、それを「研究のまとめ」とする。(改めて作成したり印刷したりしない。) 指導案及び成果と課題は、毎回26部+10部印刷し、保存用とする。

荒砥小学校がめざす算数科授業のイメージ（例）

	めざす子供の姿	教師の働きかけ	思考を促す発問
課題設定	・ 問いや気づき 「あれっ」「どうして」「前とちがうぞ」 ・ 自分事として捉える 「やってみたい」	・ 前時までの子供のふり返りを活用 ・ 単元・題材との出会わせ方の工夫 ・ 子供の問いや気づきを引き出す ・ 絵、図による視覚化(イメージ化)	○前の学習と違う所はどこですか。
見通し	・ めざすゴールをイメージする 「こうやったら解けるかな」 「今まで学習したことが使えそうだ」	・ 児童の問いを生かしためあての選定 ・ 見通しを持ち、めざすゴール（評価規準）をイメージさせる ・ 既習の知識を活用する場の設定	○どんな方法でできそうですか。 ○何をもとにして考えればいいでしょうか。
自力解決	・ 数学的活動 (図・式・表・絵・具体的操作など) ・ 1つ出来たら別の方法 「もっと良い方法や他の方法はないかな。」 ・ 発表準備 「どんな順序でどのように説明すればよいかな」 ・ つまずきの表出 ・ ミニティーチャー	・ 自分で課題に向き合い考える時間の設定 ・ 考えが進まない子供への手立て ・ 1つができたなら、別の方法で考えさせる。 ・ 子供を見取り学び合いにつなげる	○絵や図に表せないかな。 ○式に表すとどうなるかな。 ○ここはどう考えたのかな。 ○自分の考えをみんなに説明できるように書いてみよう。 ○他のやり方はないか考えてみよう。
学び合い・価値の共有化	・ 自分の考えの根拠を示して発表する。 ・ わからない時は、積極的に聞く。 「～はどういうことですか。」 「どうしてそう考えたのですか。」 ・ 友達の考えと比べて聞き、違いや共通点、よさに気づき、伝える 「～さんの考えを聞いて・・・とわかりました。」 「～さんの考えがよいと思いました。わけは～。」	・ 考えを表現する機会を保障する ・ 何をねらった学び合いか目的を明確にする（数学的なよさに気づかせるなど） ・ 学びの目的に合った場の設定や工夫 ・ 深い学びにつながる発問の工夫 ・ 多様な考えをつなげたり関連づけたりする	○友達同士の考えを比べてみましょう。 ○もっと詳しく聞いてみたいところはどこかな。 ○もっとわかりやすく表せないかな。 ○いつでも使えるやり方はどれですか。
まとめ・習熟	・ めあてについて自分の言葉でまとめる ・ よさを生かして、問題を解く ・ 習熟・応用	・ めあてと正対してまとめさせる ・ よさを使って、適用問題を解かせる ・ 定着・状況の的確な把握と必要に応じた手立ての工夫	○わかりやすい方法で解いてみましょう。
振り返り	・ 学びの過程を振り返り、新たな問いを見いだす ・ 思考の変容 「考えが変わった」 「改めて強く思った」 「見方が広がった」など ・ 自分の成長 「できるようになった」 「友達にわかってもらえた」 「新たに気付いた」など ・ 学ぶことのよさ ・ 次時への意欲 「この次はこんな問題をやってみよう」	・ 学びの過程を振り返り、新たな問いを持たせる ・ 思考の変容を自覚させる ・ 自分の成長を感じさせる ・ 学びのよさを自覚させる	